

### ～避難施設の紹介（その3）：住環境について～

本号では、避難施設での生活の一端を理解していただくために「避難施設内の住環境がどうなっているか」を説明します。

我々が避難対象にしている地震（多摩東部直下地震：2022年に多摩直下地震から変更されました）が発生すると、ライフラインが被害を受け、停電、断水、下水管の破損などで生活排水が流せなくなります。使用できなくなったライフラインの機能を90%回復させる目標日数は下記の通りです。

電力	上下水道	通信	都市ガス
7日	30日	14日	60日

（出所：東京都「日常備蓄」で災害に備えよう）

- 避難施設は、体育館および校舎を使いますが、大きく①避難者向け居住部分（一般者用、要支援者用）、②居住用以外の共有部分（通路・廊下、トイレ、更衣室、授乳室など）に分かれます。
- 避難者は体育館の居住スペースに收容されますが收容しきれなくなると、順次校舎内の居住スペースになる教室に收容されます。さらに、成瀬台小学校に收容できなくなった場合は、成瀬台中学校を避難施設として使用します。
- 本号では、成瀬台小学校を避難施設に使用した場合について記載していますが、成瀬台中学校の避難施設も同様です。

#### 1. 居住スペース

居住スペースは、現在の計画では、成人1人につき4㎡の広さです。

このスペース内で「寝る、食事する、持参した持ち物を置く」など生活のすべてをおこないます。

居住スペースの床は、体育館（約500㎡）、教室（60㎡）共に板敷です。

寝る時は、床の上にエアーマット\*を敷きます。畳や敷布団、マット、ベッドはありません。

上掛けはブランケット\*1枚です。掛け布団や、枕はありません。

各人のスペースを仕切る間仕切り板や、カーテンはありません。もちろん個室もありません。体育館を大きな一部屋としたオープンスペースになります。教室もおなじです。

屋内用テント\*が50張り用意されているので小さな子ども連れ家族への利用を検討しています。

居住スペース部分は、各自で適時清掃して、きれいに清潔に保つよう心掛けてください。

体育館には、停電時に自家発電装置により72時間は電気が供給されます。また、体育館には空調設備が設置されていますが、自家発電装置稼働時は、送風のみとなり冷暖房は使えません。



成瀬台小学校体育館内部  
（入口より舞台方向を見る）



エアーマット：収納時はコンパクトに畳んで収納でき、使用時は空気を入れて膨らませます。

※ 文中に\*印の付いた備品は、町田市の防災備蓄倉庫内の備蓄品を使用することを示しています。

## 2. 共有部分

### ① 屋内施設

#### ◆ 通路・廊下について

- ・体育館内部には、居室エリア以外に、体育館内東西南北と中央部分に車椅子も通れる通路を設けます。教室内にも避難者が通れる通路を設けます。校舎内の廊下はそのまま廊下として利用します。

#### ◆ トイレについて

- ・校舎内のトイレは、洋式便座の上に携帯トイレを取り付けて簡易トイレとして使用します。和式と男性用立小便器は使用できません。

#### ◆ 更衣室、育児室、授乳室について

- ・更衣室は、男性用、女性用別々に設置します。
- ・育児室、授乳室は、それぞれ設置します。

#### ◆ 調理場について

- ・避難者の食事を準備する調理場は、家庭科室を使用します。
- ・この部屋は個人の使用はできません。避難者用の食事を準備する担当者のみでの使用になります。

### ② 屋外施設

#### ◆ トイレについて

- ・体育館南側にマンホールトイレ 10 基が設置され、女性用6基、男性用3基、要支援者用（車椅子対応）1基となります。

ウォシュレット機能はありませんが洋式トイレとしては使用できます（し尿を下部の排水管に落とす方式）。

- ・校庭のウサギ小屋付近のトイレは使用できません。

- ・トイレは避難者全員が使用します。トイレ使用ルールを必ず守ってきれいに使用ください。

#### ◆ 飲み水（給水）について

- ・飲料水・生活水としては、小学校車両門（中学校は正門）付近に設置されている応急給水栓が使えます。
- ・給水は、各自用意のやかん、ポリタンク、バケツなどにおこない、持ち帰ります。
- ・応急給水栓とその周辺（給水場）は、やかんなどの容器への給水にのみに利用し、衛生管理上の観点から洗顔、歯磨き、洗濯、身体洗い、手洗い、足洗い、などの給水以外の行為は一切禁止です。
- ・応急給水栓を口や汚れた手などで触らず、使用ルールを守って使用ください。

#### ◆ 生活排水について

- ・下水管が使えなくなるため、洗顔、歯磨き、食器洗い、洗濯、シャワー・風呂などに生活水を使わない代替手段を各自用意ください。在宅避難の場合も同様になります。
- ・水を使わずに洗顔や歯磨きが可能な用品を各自用意ください。
- ・食器洗いにはウェットティッシュの使用や、食器を使用する前にラップフィルムを敷くなどですて食器を洗わずに済む工夫をしてください。
- ・洗濯もできなくなるので、各自で使い捨て下着などを用意ください。

以上のように、避難施設の住環境は、冷暖房もなく、プライバシーもない、制約の多い、厳しい環境です。自宅で避難生活をする（在宅避難）を大いに推奨します。

次号以降では、避難施設内における日々の生活とそのルール、衛生面の対応（トイレの利用、ごみ出し、清掃）、施設内での役割・当番、などを紹介する予定です。

お知りになりたいこと、疑問・質問・提案などは、[info-tamanaru-hinan@jcom.zaq.ne.jp](mailto:info-tamanaru-hinan@jcom.zaq.ne.jp) までお寄せください。

